

## 第3分科会

### テーマ「学校・地域の特色を生かした道徳教育」 ～『海田西中だからこそ』の道徳教育を創る～

提 案 者 海田町立海田西中学校  
司 会 者 府中町立府中緑ヶ丘中学校  
記 録 者 府中町立府中中学校  
指導助言者 西部教育事務所芸北支所

#### 1 はじめに

海田西中学校は広島市の近郊に位置する全校生徒208名の学校である。比較的規模が小さいこともあり、生徒と教師の距離が近く、全教職員が関わって一人一人を育てていく雰囲気がある。生徒たちはボランティア活動やあいさつ運動といった伝統を守りつつ、さらに今年度は生徒会執行部を中心に、自ら気付き考えた自発的な活動に取り組んでいる。真面目で人なつこいが、授業等で意見を主張することには消極的な生徒が多い。

平成26年度には「道徳教育改善・充実」総合対策事業の研究指定校となり、「心豊かで、自分を大切に、他者を大切に、より良い生活を目指す生徒の育成」という主題のもと研究を進めた。

今年度は「『西中だからこそ』の教育の創造」のミッションのもと、学校教育目標を「『一歩前へ！果敢に挑戦』～夢を志に」としている。道徳教育においても、一昨年度からの成果を引き継ぎ、さらにそれを発展させていくことで、「海田西中だからこそ」といえるものを創っていきたいと考えている。

#### 2 学校の特色を生かした取組

##### (1) 魅力的な教材の開発と活用

###### ア 教材の開発

平成26年度の研究推進の中で、生徒の心を育てるためには、要となる道徳の時間が生徒にとって魅力的な時間でなければならぬと考え、魅力的な教材を積極的に開発・発掘した。海田町の偉人や海田西中の創立時の出来事取材して作成した地域教材、絵本や新聞記事などをもとにした教材、

過去に色々な学校の道徳研究会などで開発された教材、広島県で開発された教材などである。開発・発掘する際には、生徒が驚きを感じたり、新しい気付きを見出すことのできる教材になるように工夫した。

###### イ 教材の活用

平成26年度に開発した教材を中心に、年間指導計画を作成している。

また、資料・略案・ワークシート・板書の写真・短冊・掲示資料などの教材をすぐに使えるように整備し、毎週の授業に活用している。短時間の準備で充実した内容の授業をすることができ、授業の情報を学年担当をこえて共有しやすい。授業担当者のアイデアで資料が補足されることもある。教材は27年度以降も少しずつ整備・補充している。（図1）



図1 教材の整備

###### ウ 「西中だからこそ」の教材

平成26年度に「校歌に思いを込めて」（主題：愛校心）という教材を作成した。校歌の作詞者・作曲者に取材し、校歌にこめた思いを伝え、自分にとっての校歌の意味を考えさせる教材である。

この年には全学年に実施したが、それ以降は1年生の1学期に位置づけている。中

学校入学後に、校歌を通して学校の一員としての自覚を持つことにつながっている。一昨年は道徳参観日に実施し、卒業生である保護者にも授業に参加してもらうことができた。また、卒業前の「道徳の時間の振り返り」には、この授業について改めて思い出し、卒業式にかけの思いや感謝の気持ち、後輩たちに託す思いを書いた感想もあった。時間を超えて先人との繋がりを感じたり、三年間を通した自分の成長に気付いたりできる「西中だからこそ」の教材になっている。

## (2) 海田西中の授業スタイルの構築

### ア 生徒の意見を交流する工夫

略案やワークシートの流れの中には、小グループ→全体交流を基本とした生徒同士の意見の交流を組み込んでいる。大勢に対して自分の考えを発表することに消極的な生徒が多いという実態に対応して始めたスタイルである。また、教材の内容に応じて、役割演技を取り入れる、意思表示カードを使うなどして、交流が活発になるように工夫している。

小グループは平成 26 年度の道徳の研究をきっかけに各教科でも活用され、定着している。生徒は、自分の考えを周囲に聞いてもらうことに充実感を感じている。さらに、異なる考えに出会うことを「考えが広がった」「いろいろな意見があるから道徳は楽しい」と肯定的にとらえている生徒が多い。



道徳の時間の様子

### イ 振り返りの工夫

#### (ア) 「道徳かわら版」

ワークシートの最後には、授業の感想を自由に書かせるようにしている。授業後に担任教師はその中からいくつかの感想を選び、「道徳かわら版」という掲示

物を作成し、掲示している。授業のねらいを理解して自分の言葉で表現しているもの、体験に基づいた深い気付きを書いているもの、作文が苦手な生徒が一生懸命に書いたものなど、授業者でもある担任教師が考えながら選んでいる。感想の交流ができる、授業では見落としていた意見に光を当てることができる、様々な生徒に活躍の場を与えることができるといった効果がある。(図2)

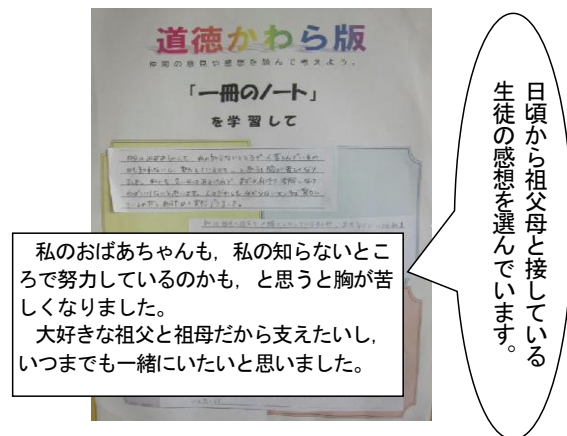


図2 道徳かわら版

#### (イ) 「道徳の時間を振り返る」時間

学期末に道徳の授業を振り返る時間を設けている。学期の道徳の時間の内容を簡潔にまとめたプリントを配布し、心に残った授業3つを選び、その感想と道徳の時間全般の感想を記入させる。3学期末には1年分、卒業前には3年分の授業を振り返ることにしている。(図3)

時間をおいて授業を振り返る中から、生徒は自分自身の姿を改めて振り返ることが多い。自分の成長やこれから目標とすべきこと等を書くこともある。学年を追うごとに感想の内容に変化が見られ、教師も、日頃は出ていない個々の生徒の姿や内面の成長に気付くことができ、生徒理解に役立っている。

また、「友達のことをたくさん聞いて考えが広がった」「いろいろな生き方に触れることができておもしろい」といった感想は、授業の流れや教材の内容を考える上で参考になる。さらに、生徒に選ばれた授業を集計して、道徳の時間の年間計画の振り返りや次年度の計画作成に役立てている。

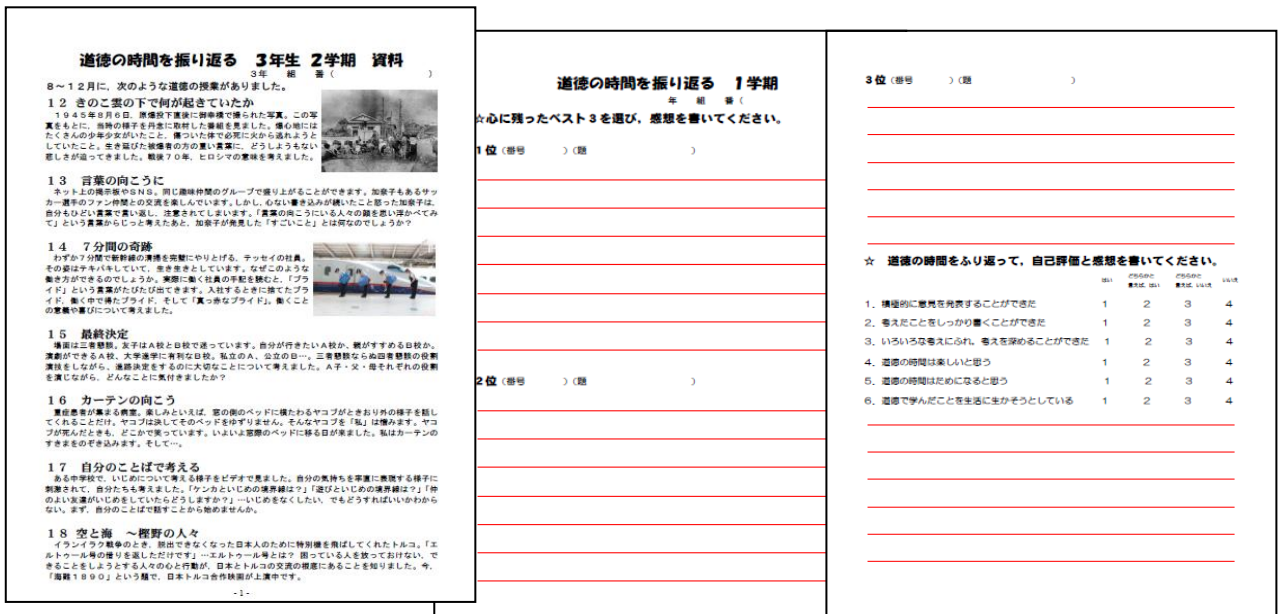


図3 道徳の時間の振り返りプリント

(3) 道徳教育推進体制

年間指導計画に従って、整備された教材を活用すれば、安心して毎週の道徳の授業に臨むことができる。しかし、今あるものをそのまま使えばいい、言われたことをそのままやればいいという受身の姿勢では道徳教育の向上は期待できない。限られた時間の中で、教職員の主体的な参加を促し、より良い道徳教育を創っていく工夫をしている。

ア 「得意な教材」をつくる取組

担任教師が実施する道徳の授業は一度きりであるので、教材に慣れたり、生徒の反応を見て指導方法を改善したりすることができにくい。そこで、一定期間を設けて、一つの教材の授業を複数のクラスで担当し、改善していきながらそれを自分の「得意な教材」としていく取組を実施している。担任だけでなく学年担当も道徳の授業を行うことにしている。教材はできるだけ自分で選んでもらうようにしている。

イ 道徳教育推進教師の役割

「得意な教材」づくりの際などに教材を工夫したい場合には、道徳教育推進教師がアドバイスを行っている。例えば、参考になる教材を提示したり、授業の流れや発問を一緒に考えたり、補助資料を提案したりしている。図4は、昨年度の空き時間や放課後に行われたやりとりである。新しい教材が工夫され、次年度の年間計画に位置づけられている。

積極的に取り組んだ教員は、多くの気付きや手応えを感じている。教職員が道徳の時間の魅力を感じて主体的に取り組むことが、日々の授業の改善につながると考えている。

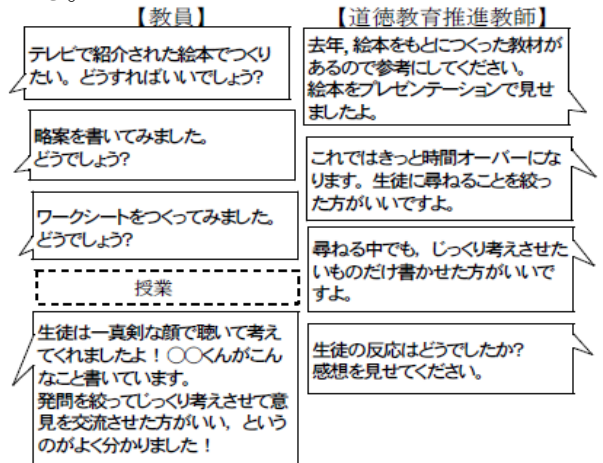


図4 道徳教材を工夫するためのやりとり

3 地域の特徴を生かした取組

海田西中学校では、平成25年度に「心の元気を育てる地域支援事業」の指定を受け、現在も、「あいさつ ふれあい 夢いっぱい 海田町」の地域まるごと宣言のもと、小中学生の交流や、地域や保護者と一体となったボランティアを実施している。

こうした体験活動と道徳の時間を関連づけている。実際に体験したことから一歩踏み込んだり広げたりできる教材を仕組むことで、自分たちが活動で感じたことや活動の価値を言葉にすることができる。さらに、自分の生き方に

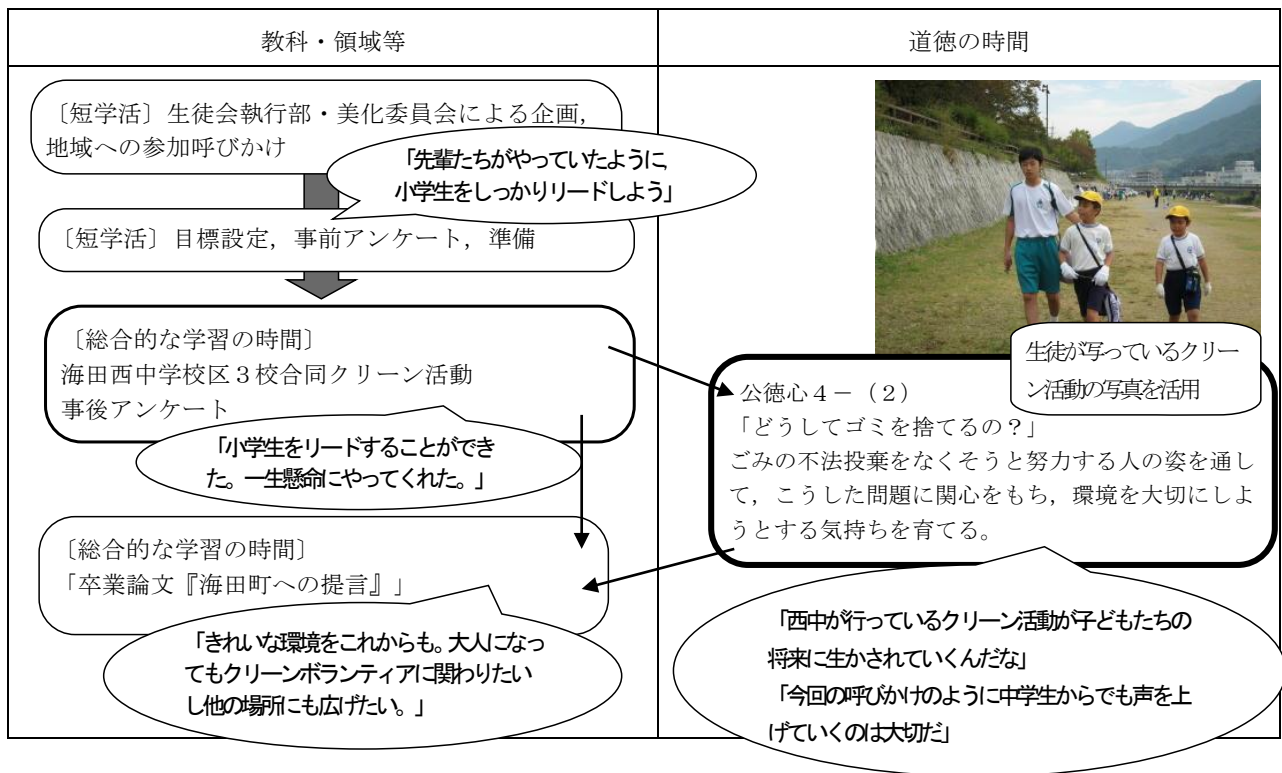


図5 三校合同クリーン活動と関連させた道徳の授業と生徒の感想

ついて考えを深めることができる。

図5は、三校合同クリーン活動と関連させた道徳の授業と生徒の感想である。ふきだしにあるように、生徒たちは「小学生をリードし、先輩たちから受け継いだ行事を成功させる」「百人の地域の方や保護者に参加してもらって新たな伝統を創る」といった目標をもってこの活動に取り組み、成功させた。その後の道徳の時間では、ごみの不法投棄問題を解決

するにはどうすればよいかを考える中で、自分たちの活動が小学生の意識を育て、地域社会に環境美化を呼びかけるものであったことに改めて気付くことができた。

三校合同クリーン活動には様々な教員が関わっている。途中途中の生徒の姿を教員間で共有することで、個々の生徒の気付きを生かした次の指導ができると考えている。

#### 4 おわりに

魅力的な教材と出会うと、生徒たちの顔が上がる。よい発問のときには、言葉を選びながら自分の中にある考えを言葉にしようとする。友達の意見が聞きたいと思っているときに交流を仕組むと、楽しそうにやりとりする。何かに気付いたときにははっとした表情をす

る。終末の感想や振り返りには、自分を見つめた意見や、将来のめざす姿を書いてくる。道徳の授業では、生徒の真剣な姿、生き生きとした表現を見ることができる。

こうした魅力ある時間にするために、最も重視しているのは、生徒たちの心の動きを大切にすることである。押しつけるのではなく自分で気付かせるために、教材や発問を工夫すること、生徒の自由な感想をフィードバックし次の指導に生かすことを続けてきている。

「道徳の時間に様々な話に出会い、多くのことを考えることができた。その中で、今の自分に重なったり、将来の夢につながったりする話に出会えたことは、何より自分について考えるよい機会になったと思う。友達の意見を聞き、他の人はこんな考え方をしているんだなど、新たな視点から見ることができるようになり、考えも深まった。この時間から様々な大切さを学んだので、それを自分の将来につなげていきたい。」これは昨年度3月、ある生徒が卒業前に書いた道徳の時間の振り返りである。こうした生徒の成長を感じ、その姿を共有しながら全教職員で取り組むことが、「海田西中だからこそ」の道徳教育を創ると考えている。